

分化型甲状腺癌に対する分子標的治療薬の適正使用についての勧告

分子標的薬ソラフェニブおよびレンバチニブは「根治切除不能な甲状腺癌」を適応症とするが、分化型甲状腺癌（乳頭癌、濾胞癌、低分化癌）に対しては、甲状腺（準）全摘手術のうえで放射性ヨウ素（RAI）内用療法が行われていることが大前提となる。そのうえで、RAI 治療抵抗性が確認され、かつ進行性が認められる症例に対してのみ分子標的薬の使用が考慮されるべきである。しかしながら、RAI 内用療法を施行せずに分子標的薬治療を開始している症例が少なからず認められる

RAI 治療抵抗性および進行性については、関連 5 学会による甲状腺癌診療連携プログラム <http://www.jsmo.or.jp/thyroid-chemo/>の「適応症例：根治切除不能な分化型甲状腺癌に対する分子標的薬治療の適応患者選択の指針」の項を参照し、適正な使用を行うことを推奨する。

2017 年 11 月 7 日

日本内分泌外科学会/日本甲状腺外科学会 薬物療法委員会